

高血圧注意報発令中

● 問い合わせ 保健医療課健康支援室

☎ 53・2111 (内線2611・266)

「高血圧」について今号からシリーズでお伝えしていきます。
まずは、市の高血圧の現状をお知らせします。



健康支援室 瀬賀保健師

■高血圧とは

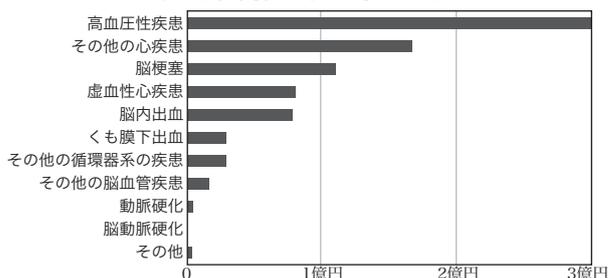
血圧とは「血液が血管を流れる際に、血管の壁を押し広げようとする力」のことを指します。では、具体的にどのくらいの血圧値が高血圧と呼ばれるのでしょうか。高血圧治療ガイドライン（日本高血圧学会）では、成人の高血圧を「収縮期血圧（上の血圧）140 mmHg以上」または「拡張期血圧（下の血圧）90 mmHg以上」と定義しています。

医療費の

割合が多い

平成25年度の市の国民健康保険の医療費は、「循環器系の疾患」が約8億円と医療費全体の15・9%にも上ります。「循環器系の疾患」の1人当たりの費用額は約4・8万円です。
その中でも「高血圧性疾患」が約3億円と43・5%を占めています（表1参照）。また、その他にも「虚血性心疾患」が7869万円（10・6%）、「脳梗塞」が6551万円（8・9%）など、高血圧が要因となっている疾患が多く、割合を占めています。

表1 平成25年度循環器系の疾患医療費（約8億円）の内訳



県平均を

上回る村上市

平成25年度の市の特定健診の結果、高血圧の人は26・5パーセントと、県の平均24・0パーセントと比べると高い現状にあります。そのうち6割以上の方が、医療機関で高血圧治療を受けていない状況です。
次に収縮期血圧に着目してみましよう。右下の表（表2）は、平成25年度に収縮期血圧が140 mmHg以上あった人の割合です。年齢が上がるに従い割合が増えていることが分かります。また、県の平均と比較すると、この年

代も県の割合を上回っていることがわかります。これらのことから、市は県より収縮期血圧が高い人の割合が高いといえます。

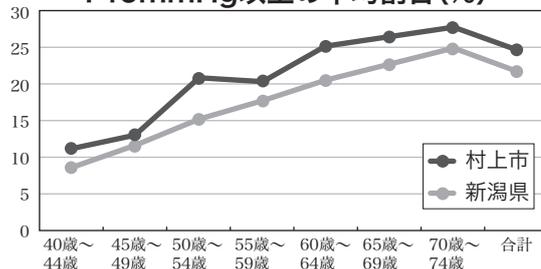
早めの受診を

心がける

高血圧は脳梗塞や虚血性疾患（心筋梗塞や狭心症）、腎障害網膜症などの重大な病気を引き起こす要因の1つとされています。血圧が上がってきたら、早めの受診を心がけましょう。



表2 平成25年度 収縮期血圧140mmHg以上の平均割合 (%)



お気軽に講座を受けてみませんか

保健医療課では「血管からのメッセージ」高血圧予防」という出前講座を行っています。より詳しく話を聞きたい人や血圧の話に興味のある人は、保健医療課または各支所地域振興課地域福祉室へお申し込みください。